

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、東日本大震災により被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当社の第113期第2四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）が終了しましたので、事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成23年12月

代表取締役社長 **國保善次**



当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による後退から製造業の生産を中心に急速な回復を見せましたが、期の半ば以降は、円高と世界経済への不安材料が色濃くなる中で停滞を余儀なく

されました。世界経済は、欧米のソブリンリスクの高まりから投資家のリスク回避の動きが加速し、世界的な株価低迷と円高に歯止めがかからない、極めて不透明な状況でありました。

国内鉄鋼業におきましては、期の前半で一部に震災復旧需要が見られ、6月以降は粗鋼生産量も徐々に回復しましたが、国内需要の弱含みから在庫の積み上がりは解消されず、市況は軟調に推移しました。海外鉄鋼市場は、8月の世界粗鋼生産量が24ヶ月連続で前年同期比超になるなど拡大基調が続いておりますが、中国での生産過剰が解消されないなど、市況としては全般的に軟調に推移しました。また、資源価格も上昇の勢いは衰えたものの依然高止まりしたことなどから、世界的に鉄鋼業の収益圧迫の構図が続いております。

このような環境下にあって当社グループは、鋼板関連事業で東北地方を中心とする住宅建材向け鋼板商品やエクステリア商品などの復旧需要に 대응するとともに、ロール事業では震災被害を受けた顧客の設備復旧へのサポートなどに注力いたしました。また、主原材料である熱延鋼板の値上りに伴う当社鋼板関連商品の価格改定について、顧客のご理解を得られるよう引き

続き努めてまいりました。

台湾の子会社センユースチール社につきましては、台湾国内の販売量が伸びたことから前年同期比で増収となりました。販売価格は期の半ばに改定が進みましたが、期初の改定の遅れと期の終盤に台湾国内・輸出ともに市況が軟化したことから、営業利益は前年同期比で減益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高773億81百万円（前年同期比54億34百万円増）、営業利益46億7百万円（同9億50百万円増）、経常利益51億30百万円（同9億17百万円増）、四半期純利益21億20百万円（同7億37百万円増）となりました。

なお、中間配当金は、1株当たり5円とし、12月1日よりお支払いすることといたします。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

美しい未来の 「環境」「景観」へ。

環境保全対策が国境を超えた課題となり、景観美化への社会的関心が高まるなか、ヨドコウは「安全・安心・環境・景観」を事業キーワードに、広範なアプローチを推進。鋼板のリーディングメーカーとしての総力を結集し、美しい未来社会に寄与する企業活動を展開しています。

「長持ちというECO」を コンセプトに商品開発

当社は「長持ちというECO」を開発コンセプトに掲げ、更に「環境」「景観」に細やかに配慮した商品開発を行っています。商品の高耐久化を徹底的に追求し、長く使っていただくことで生産エネルギーの大幅な抑制をめざす。いうなれば省エネ・省資源を抜本的に考えようとする発想です。

それを支えるのが、鋼板(圧延、めっき、カラー)から、建材商品・エクステリア商品までを自社で一貫生産するという他の建材メーカーにはないヨドコウの特徴です。そのなかで、当社は、環境負荷物質低減のためクロムフリー鋼板の開発、販売を他社に先駆けて進めてまいりました。「世界的な趨勢であるクロムフリー化を早期に図ったことが、結果的に競争力の強化にもつながりました。」(渡辺)

また、エクステリア商品では、鋼板を

成形加工する前に塗装を施すプレコートカラー鋼板を使用し、さらに接合部をスポット溶接でなく、面で接合し強度を高める接着工法を採用することによって、トップレベルの高耐久性を実現しています。

安全・安心・環境・景観に貢献する商品を提供するため妥協のない企業姿勢が業界を力強く牽引しています。

「環境」「景観」を 考える出発点は 美しい生活環境への提案

ダストピットの開発もまた、時代に一歩先んじたアプローチでした。環境意識がまだ熟していない1994年に、デザイン・耐久性に優れたダストピットを他社に先駆けて発売し、新たな市場を創出してきました。

「近年はごみの分別意識が浸透し、自治体で補助金制度を設ける動きが広がるなど、当社が先鞭をつけたダストピットは、地

域の景観美化に不可欠な存在として認知されつつあります。」(渡辺)

また「ダストピットDPRA」は、2010年度のグッドデザイン賞を受賞。しかし決してデザイン本位で開発された商品でなく、広くヒアリングを実施し、機能性や使いやすさを徹底して追求した結果、洗練されたフォルムに結実しました。



GOOD DESIGN



ダストピット Rタイプ DPRA-1807

「屋外収納を中心とした当社のエクステリア商品の開発の骨子は、美しく快適な生活環境への貢献です。生活環境を改善するための提案が、ひいては地球環境の保全にも、地域の景観美化にもつながる。その意味で、『環境』『景観』は切り離すことのできないテーマだと考えています。」(河本)

屋根材の技術蓄積を応用し、 太陽光発電や屋上緑化にも注力

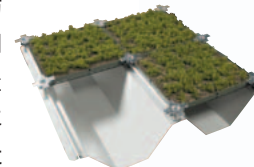
「環境」「景観」を同一座標に捉えた商品開発。それは鋼板を自社で一貫生産し、屋根材や壁材を通じて空間の骨格を支えてきた当社ならではの強みといえるでしょう。そうした総合力を活かし、太陽光発電にも取り組んでいます。既設の折板屋根に後付けで設置でき、既存建築物の屋根を補強する事なく設置できる超軽量で薄型の太陽光発電パネルを開発。軽量性

や施工性、汎用性に優れた次世代ソーラーシステムとして注目を集めています。



ファインソーラー

またCO₂削減やヒートアイランド現象緩和の観点から、一定以上の敷地面積の建物に屋上緑化を義務づける条例が複数の自治体で施行されていますが、ヨドコウ「ファイングリーン」は、折板屋根の上にユニット化された植栽トレイを設置するという施工性に優れた画期的な屋上緑化工法。下地や防水層などの専門工事が省け、屋上緑化の拡大に寄与するものと期待されています。



ファイングリーン

これらの商品開発は折板屋根の製造販売で蓄積した長年のノウハウを起点としたものであり、ソーラーパネルと屋上緑化の設置比率が自由に設定できるなど、屋根を究めた当社だからこそ提供できる技術が結集しています。空間づくりも、環境対策も、景観美化も、ワンストップで対応し実現する。当社の総合力が、社会や企業の課題に対して、理想的なソリューションをお届けしています。

ヨドコウの ECOソリューション 最前線



ファインソーラー 壁面設置 イメージ図

壁面ソーラーで積雪地域の 創エネルギーに貢献

自然再生エネルギーの主演として注目されている太陽光発電ですが、北海道や東北などの地域では、冬期の屋根の積雪が大きなネックとなっていました。そこで当社では北海道内の北方建築総合研究所でテストを行いながら、壁面にソーラーパネルを設置して発電する可能性を模索してきました。実験の結果、地表面に積もった雪の反射光により、積雪地では年間を通じるとソーラーパネルを屋根の上に設置した時の発電量を超える発電量を壁面設置で確保できることが実証されました。富士電機株式会社様と協働で生活協同組合コープさっぽろ様の店舗にご採用いただくなど、積雪地域の太陽光発電の活性化に大きな光を灯しています。

営業本部 製造・開発部長

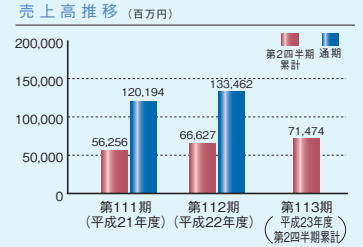
河本善博

営業本部 営業二部長

渡辺隆昌

鋼板関連事業

主な製品
冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板、ガルバリウム鋼板ほかの表面処理鋼板、建築材料(屋根材、壁材など)、建設工事の設計および施工、エクステリア商品(物置、ガレージ、自転車置場、ダストビットなど)



鋼板関連事業

国内需要の捕捉、深耕
海外展開による事業拡大

震災による経済活動への影響や円高、海外の金融不安などもあるなか、積極的な受注活動に努め、販売量が増加し、増収。

家電向けPCMは、国内では節電需要・テレビの地デジ化などにより回復。海外では、円高や価格競争激化により苦戦。

建築向け表面処理鋼板は、住宅着工戸数の持ち直しや復旧需要の捕捉に努め、販売量は増加。

輸出向けは、生産工場の操業度と販売価格を勘案しながら選別受注を行った結果、販売数量は減少。

今後も厳しい経済環境が予想されますが、復興需要への積極的な対処や環境対応商品の販売強化を通じ、より社会に貢献できる商品とサービスの提供に努めます。また中国とタイでの新たな表面処理鋼板製造ラインの立ち上げに向け現地法人と一体となり、一層のマーケット調査や受注準備活動に取り組みます。

建材業務
節電・省エネ対応商品と
多目的用途商品の拡販

建築工事の延期や電力制限など景気の停滞感のなか、復旧需要などもあり売上高は堅調に推移しました。

店売鋼板商品は震災関連の復旧・復興需要などと原材料の高騰に伴う価格改定が寄与し、増収。

建材商品は非住宅建築が低迷するなか、屋根材「ルーフ」の積極的な営業活動により販売数量は増加し、販売価格も改善。また壁材の断熱パネル「ファインパネル」は節電・省エネ志向の高まりから採用が増加し、増収。

エクステリア商品は、震災関連の需要などもあり増収。物置は中大型物置「エルモ」が好調、ゴミ収集庫「ダストビット」も引き続き好調。オープンスペースを併設し多目的用途に使用できるガレージ「ラヴィージュ」と新商品「エルモコンビ」はユーザーの高い評価を受け大幅増収、引き続き拡販に努めます。



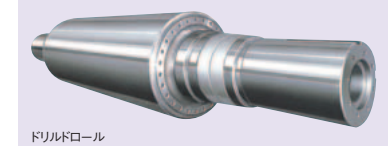
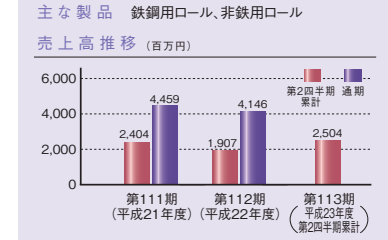
ロール事業

鉄鋼向け・非鉄向け共に数量増
提案型営業の更なる展開

鉄鋼向けロール、非鉄向けロールともに販売数量が伸び、増収。鉄鋼向けは厚板用ワークロールの緊急の引き合いに即応し受注することができました。非鉄向けでは、製紙向けの物件を納入、製紙会社の震災復旧工事に協力し、また太陽光発電装置の保護フィルムなどの製造設備に使用するドリルドロールが拡販できました。

今後も、ドリルドロールについては、設備メーカーと緊密に協調することで拡販に注力。また、製紙業界向けは、技術提携先のアンドリッツキュスターズ社(ドイツ)との技術提携品目にシュープレスを加え、省エネをアピールして受注活動に努めます。

ロール事業



グレーチング事業

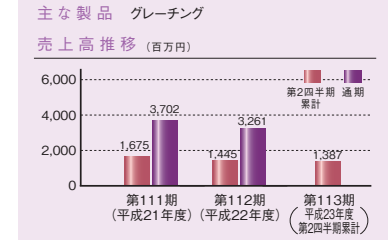
積極的な営業活動と高機能商品の拡販

公共工事が減少するなか、既存の販売ルートに加え、施主やゼネコン、舗装業者に対する川下営業により物件を受注し販売量は維持。海外品の安値販売による競争激化により、販売価格は下落。

引き続き既存店のフォロー、新規店の開拓に努めるとともに、川下営業によるプロジェクト案件の獲得に注力。

また、復興需要が予想される東北地方の漁港向けに高い耐食性を持つ「ヨドガルファングレーチング」や、ゲリラ豪雨対策に高い評価を得ている「ヨドウォーターフォールズ」など、ユーザーのニーズに応じた高機能商品の拡販に努めます。

グレーチング事業

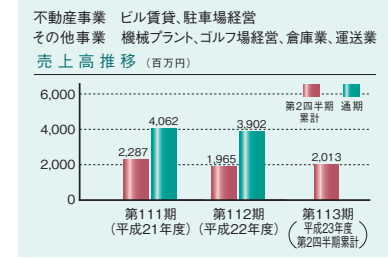


不動産事業・その他事業

不動産事業につきましては、ビル賃料及び地代収入が減少したことから減収。

その他事業のエンジニアリング業務につきましては、海外向けプラントが、海外メーカーの低価格品との競争や円高などにより厳しい状況となっていますが、2010年12月に受注した、ウガンダの鋼板メーカーRRM社向け連続式溶融亜鉛めっきライン(CGL)及び連続式カラーライン(CCL)の建設ならびに技術支援に取り組んでいます。

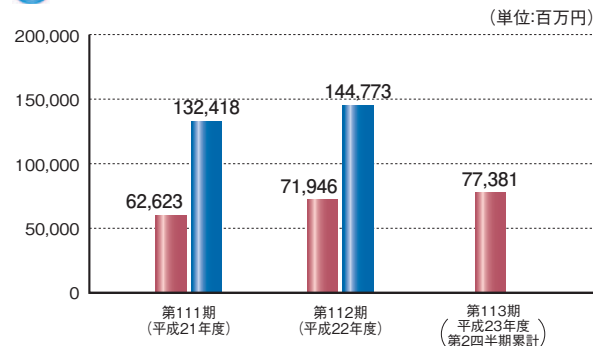
不動産事業・その他事業



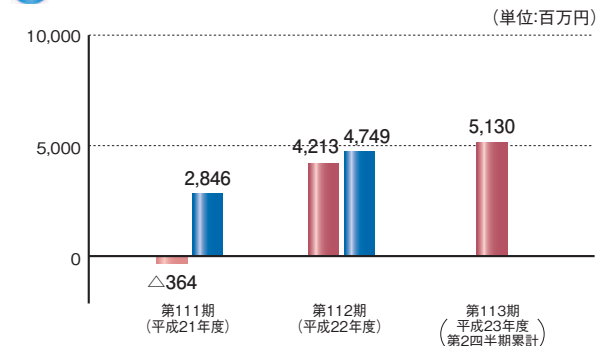
連結業績ハイライト

■ 第2四半期累計 ■ 通期

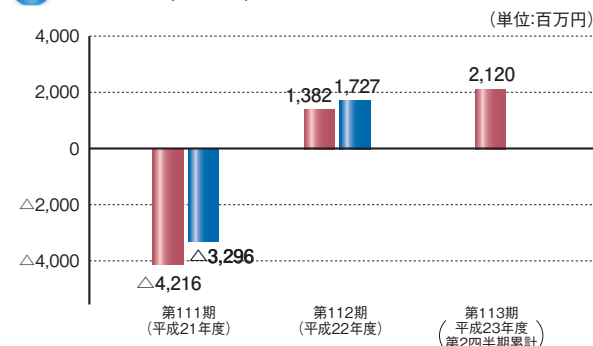
売上高



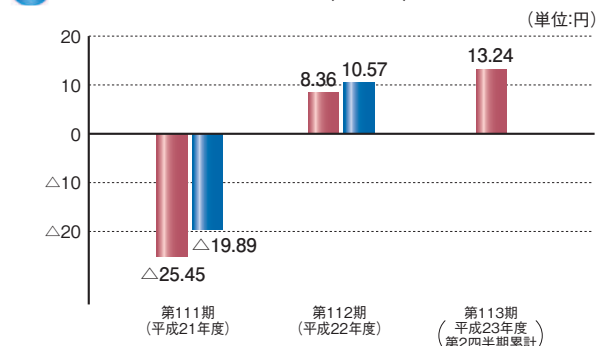
経常利益



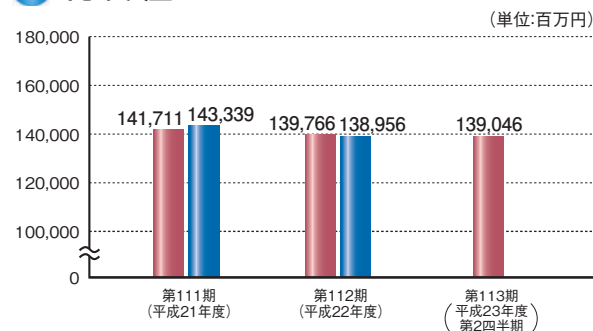
四半期(当期)純利益



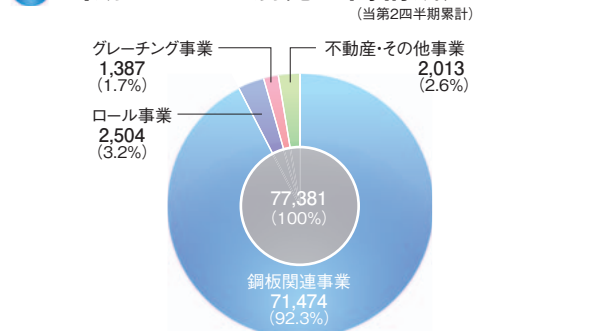
1株当たりの四半期(当期)純利益



純資産



当期セグメント別売上高構成比



連結決算の概要

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 平成23年9月30日	科目	当第2四半期末 平成23年9月30日
【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	97,871	流動負債	23,776
現金及び預金	17,250	支払手形及び買掛金	15,810
受取手形及び売掛金	35,968	短期借入金	314
有価証券	11,872	その他	7,651
棚卸資産	29,506	固定負債	12,676
その他	3,509	退職給付引当金	7,328
貸倒引当金	△236	長期預かり保証金	3,352
固定資産	77,629	その他	1,995
有形固定資産	46,144	負債合計	36,453
建物及び構築物	14,183		
機械装置及び運搬具	12,282	【純資産の部】	
土地	18,820	株主資本	126,938
その他	859	資本金	23,220
無形固定資産	381	資本剰余金	23,738
投資その他の資産	31,102	利益剰余金	89,607
投資有価証券	27,574	自己株式	△9,628
その他	3,564	その他の包括利益累計額	△309
貸倒引当金	△36	その他有価証券評価差額金	2,691
		土地再評価差額金	1,396
		為替換算調整勘定	△4,397
		新株予約権	133
		少数株主持分	12,283
		純資産合計	139,046
資産合計	175,500	負債及び純資産合計	175,500

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	77,381
売上原価	65,838
売上総利益	11,542
販売費及び一般管理費	6,934
営業利益	4,607
営業外収益	827
営業外費用	305
経常利益	5,130
特別利益	0
特別損失	715
税金等調整前四半期純利益	4,415
法人税、住民税及び事業税	1,731
法人税等調整額	145
少数株主損益調整前四半期純利益	2,538
少数株主利益	418
四半期純利益	2,120

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,068
投資活動によるキャッシュ・フロー	△132
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,009
現金及び現金同等物に係る換算差額	6
現金及び現金同等物の減少額	△66
現金及び現金同等物の期首残高	29,750
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,683

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の概要

[平成23年9月30日現在]

株式の状況

発行可能株式総数	753,814,067株
発行済株式の総数	184,186,153株
株主数	9,022名

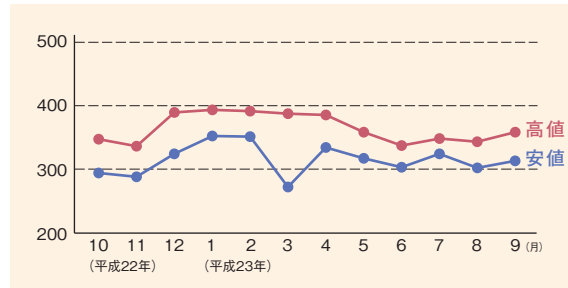
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,348	5.82
みずほ信託銀行株式会社	5,470	3.41
株式会社りそな銀行	5,342	3.33
株式会社みずほコーポレート銀行	5,310	3.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,196	2.61
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	3,886	2.42
日本生命保険相互会社	3,866	2.41
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,748	2.33
ヨドコウ取引先持株会	3,447	2.14

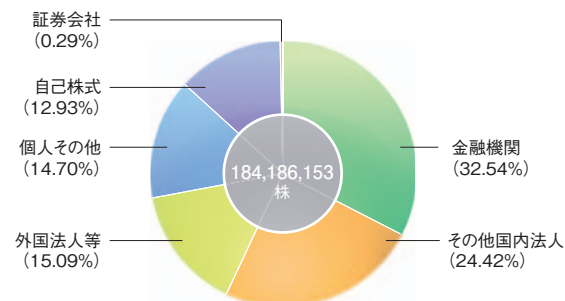
(注)当社は、自己株式23,817千株を保有しておりますが、上記大株主には含めておりません。また、持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株価・株式売買出来高の推移 (東京証券取引所)

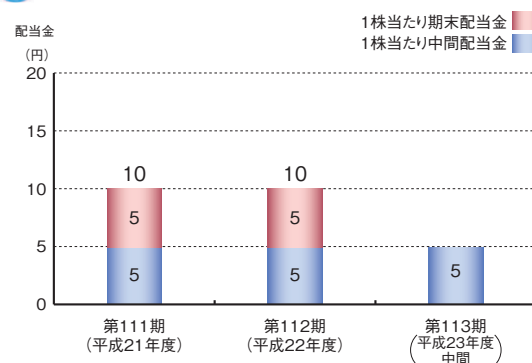
● 株価(円)



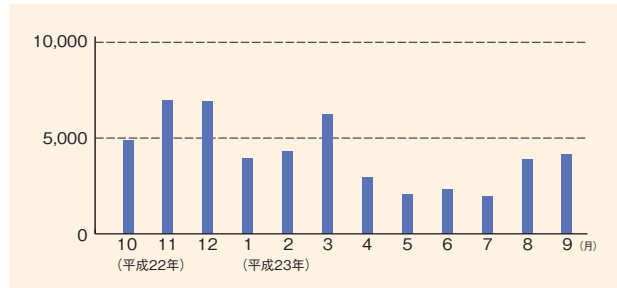
所有者別株式分布状況



1株当たり配当金推移



● 売買出来高(千株)



会社の概要

[平成23年9月30日現在]

当社の概要

社名	株式会社淀川製鋼所
設立	昭和10年1月30日
資本金	23,220,815,228円
従業員数	1,285名

当社の主な事業所

本社	〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号 06-6245-1111
支社	〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号 03-3551-1171
営業所	札幌、盛岡、仙台統括、新潟、長野、高崎、東京統括、横浜、静岡、北陸、名古屋統括、大阪統括、神戸、岡山、福山、広島、高松統括、高知、八幡、福岡統括、鹿児島、沖縄
工場	大阪(大阪府)、呉(広島県)、市川(千葉県)、福井(福井県)、泉大津(大阪府)

当社の主な関係会社

● 連結子会社

高田鋼材工業株式会社	鋼板の加工および販売
盛餘股份有限公司(センユースチール社)	鉄鋼製品の製造および販売
白洋産業株式会社	鉄鋼卸業、運送業
京葉鐵鋼埠頭株式会社	倉庫業
ヨドコウ興発株式会社	ゴルフ場等経営および不動産賃貸

● 持分法適用関連会社

株式会社佐渡島	鉄鋼卸業
---------	------

当社の役員

取締役	執行役員
代表取締役社長	國保 善次
代表取締役	専務執行役員 寺田 剛尚
取締役	常務執行役員 遠山 巽
取締役	常務執行役員 西村 修
取締役	常務執行役員 河本 隆明
取締役	常務執行役員 石田 榮次
	常務執行役員 大森 豊実
	上席執行役員 大森 眞
	上席執行役員 澤田 滋
	上席執行役員 林 真生
	執行役員 海老原洋一
	執行役員 鉄橋 彰

※石田榮次氏は会社法に定める社外取締役です。

監査役

監査役(常勤)	境口 勝己
監査役(常勤)	向井 信正
監査役	今西 康訓
監査役	湯浅 光章

※今西康訓および湯浅光章の両氏は会社法に定める社外監査役です。